☆7月のなかよしるーむ・ミニ・ミックスでは・・・☆

7月は、天候に合わせて、水遊びや粘土遊びを楽しみました(*'▽')

2歳児の子ども達が、歌の発表をしてくれたり、保育園と幼稚園で七夕の飾りつけや昔遊びをしたりして楽しみました。ご協力ありがとうございました。

☆シニアサロンぽぽらでは・・・☆

「シニアサロンぽぽら」に遊びにきませんか？

子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に1回地域の方におこし頂き楽しいひと時を過ごしています。

今月は、バスハイクです。

日　　時：8月30日（金）9時30分から14時
内　　容：「村岡屋の工場見学・菖蒲御膳でランチ」
集合場所：西九州大学　佐賀キャンパス
※電話でお申し込み下さい。℡　31－6877（平日9：30～17：00まで）

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。

お気軽にお申し込み下さい。

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による食育相談を行っています。
事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。（31-6877）

永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
2019年8月発行　第148号
認定こども園　西九州大学附属三光保育園
TEL：0952-31-6877

８月の生活目標

・遊んだ後は、みんなで片づける
・自分の事は、一人でやってみよう

「暑中お見舞い申し上げます」

梅雨がようやく明けたと思ったところ、蒸し風呂のような暑さが襲ってきました。

園では、毎朝「暑さ指数」を調べて熱中症対策をとっています。そんな暑さの中でも子ども達は外で虫捕りや木陰でままごと遊びを楽しみ、プールでは水しぶきを上げて夢中になって、夏の遊びを満喫しています。ご家庭でも色々な所へ連れていかれているようですね。年中児が小学校のお兄ちゃんと二人でおばあちゃんのいる長崎へ行ってきたよと報告をしてくれました。ドキドキしたけどお兄ちゃんがいたから怖くなかった！と、笑顔で教えてくれました。そんなドキドキ体験もまた子ども達を一回りたくましくしてくれています。私たちは、色々な体験を言葉にして伝え合い、共有して感じ合いたいと楽しみにしています。どうぞ、楽しい夏をお過ごしください。

（三光保育園長）

「なかよしミックス」に遊びにきませんか！

就園前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して親子で楽しく遊ぶ集いの場です。

★第5回目の8月は、
日　　時：8月22日(木)10:00～12:00
　　8月23日(金)10:00～12:00
内　　容：水遊びを楽しむ
★第6回目の9月は、
日　　時：9月11日(水)10:00～12:00
　　9月12日(木)10:00～12:00
内　　容：砂遊びを楽しむ。
場　　所：さんこう・ぽぽら
※駐車場は三光保育園からお入り下さい。
事前のお申し込みが必要です。
※9月2日(月)9：30より受付（平日9：30～17：00まで）
いずれの日も先着10組の親子

「フリーデイ」にもどうぞ！

日　　時：8月26日（月）・8月27日（火）
　　9月20日（金）・9月24日（火）
　　10:00～12:00（8月は水遊びもできます）
　　お好きな時間にお出かけ下さい。
場　　所：さんこう・ぽぽら

さんこう・ぽぽら開放の時間帯について

【開園日】
○月～金
（祝祭日・お盆・年末年始を除く）

【時間】
○９：００～１２：３０
・園行事の為、ご利用できない場合があります。
・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

○１２：３０～１３：３０
昼休みの為閉園

○１３：３０～１６：００
この時間帯のご利用の場合は、電話での申し込みをお願いいたします。

三光保育園：31-6877

子育て便り

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

「子育ての素晴らしさ」

西九州大学子ども学部子ども学科　准教授　櫻井　京子

私事ですが、長い子育ての時期を終えてようやく子どもも独り立ちし、この 10 年ほどはほっとした、しかし変化もあまりない日常を送っていました。そこに昨年孫が誕生し、ついにおばあちゃんデビューとなったわけです。

ぼんやりとした日常はたちまちにして変化してしまいました。10 ヶ月で保育所に通うようになってからは、やれ風邪を引いた、肺炎になった、中耳炎を併発した、手足口病を発症したというようにさまざまな病気に罹患しました。そこでおばあちゃんの出番は増え、ほぼ毎週のように通っては面倒を見ています。

自分自身が子育てをしていた時には日々余裕がない状況で、一生懸命になりすぎて肩に力が入り、子どもの育ちにしっかりと目を向けることができていなかったと反省しています。でも孫育ては、何よりその笑顔と仕草に心を癒されながら、しっかりと向き合い「実に楽しい！」と感じることができています。もちろんそれなりに年齢も重ねていますので、体力的にはかなりハードで大変ですが・・・孫に向き合う時、いつも思い浮かぶ一節があるので、それをご紹介します。私が大好きな一節であり、子育て真っ只中のお母さま方にも是非読んでいただきたいと思います。これからも、お互いに育ち合う心で子育てを楽しんで下さい。

序

自ら育つものを育たせようとする心。それが育ての心である。

世にこんな楽しい心があろうか。それは明るい世界である。温かい世界である。

育つものと育てるものとが、互いの結びつきに於て相楽しんでいる心である。

育ての心。そこには何の強要もない。無理もない。育つものの偉（おお）きな力を信頼し、

敬重して、その発達の途に遵うて発達を遂げしめようとする。役目でもなく、

義務でもなく、誰の心にも動く真情である。

しかも、この真情が最も深く動くのは親である。次いで幼き子等の教育者である。

そこには抱く我が子の成育がある。日々に相触るる子等の生活がある。

斯うも自ら育とうとするものを前にして、育てずしてはいられなくなる心、

それが親と教育者の最も貴い育ての心である。

それにしても、育ての心は相手を育てるばかりではない。

それによって自分も育てられてゆくのである。我が子を育てて自ら育つ親、

子等の心を育てて自らの心も育つ教育者。育ての心は子どものためばかりではない。

親と教育者とを育てる心である。

育ての心（上）倉橋惣三　著　フレーベル新書　より